

Title	建設業のマネジメント・システムと管理会計
Sub Title	
Author	松本光正(Matsumoto, Mitsumasa) 伏見多美雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1985
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1985年度経営学 第437号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001985-0437

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0437

学生氏名 松本光正
(清水建設株式会社)
所属ゼミナール 伏見多美雄 研

主査 伏見多美雄
副査 柴田典男
矢作恒雄

建設業のマネジメント・システムと管理会計

本研究の目的は、建設業におけるマネジメント・コントロールという点に着目し、建設業に特有の会計システムをどのように業績評価や意思決定に適用していくべきかを考察することにある。

まず、マネジメント・コントロール・システムにおける経営基本政策について、建設市場の分析や競争環境を分析することで、今、建設業がねらっている戦略や、その目的とするところについて分析した。

そして、製造業等で発達しているマネジメント・コントロール・システムを整理し、そして、それに忠実に、ある建設会社にあてはめてみた。すると、やはり理想どおりにいっているわけではなく、非公式なコントロール・システムでうまくやっている、というところもあるようだ。

また、建設という多年度にわたって事業を営み、それから収益を上げる事業に、従来の財務会計上の業績評価システムを単純に応用すると不都合が生じることがわかってきたので、その問題点を整理し、建設業ではどう対処すべきかを考察した。